



「洪水」って何なの

川の水が増え、あふれ出ること

大雨や雪どけなどのため、川の水が増えて、あふれ出ることを、「洪水」といいます。洪水になると、川の水かさが増え、川の水は堤防をのりこえ、あるいは堤防を破って、まわりの低い土地に流れこみ、大きな被害をあたえます。

川が洪水の状態になると、流れのスピードが速くなり、大量の水が短い時間に流れるので、破かい力があります。そのため、勢いのついた水は、堤防をのりこえ、周辺に被害をあたえるのです。

洪水になっただけでは、災害にはなりませんが、その洪水が原因となって、人命や建物などに被害をあたえたときには、災害となります。洪水による災害を、「水害」といいます。

洪水の原因

洪水の原因には、自然条件によるものと、人間が行ったことによるものがあります。

自然条件によるものは、台風にもなうごう雨や、梅雨の季節に起こる集中ごう雨、雪どけの時期における、雪解け洪水などがあります。

人間が行ったことによるものは、人間が自然を破かいし、山林などを切り開いたために、洪水になったり、大都市周辺の都市化が急速に進められたため、雨水が土にしみこまないで、中小の川に流れこみ、それがあふれ出て、洪水になったりしています。

洪水を防ぐために、堤防を強くしたり、山に木を植えたり、洪水調節用のダムを造るなどの努力が続けられています。（監修・保岡 孝之）

